

Network as a Service

ネットワークインフラストラクチャの柔軟な消費モデルの 主な促進要因とベネフィット

11か国1,101人の回答者を対象にIDCが実施したグローバル調査からのデータ

IDCの調査では、企業のNaaS (Network as a Service) への関心に拍車をかけているのは、ネットワーク管理の簡素化と運用の向上を実現したいという要望であることが示されている。

NaaSの導入は増加傾向にある



3分の1の組織が
クラウドまたはエッジのユースケースに
NaaSをすでに導入している。



実装のトップは、サービスとして提供される
ハードウェアとソフトウェアである。

62%

すでにNaaSを導入している組織の
62%が過去3年以内に導入した。

新たに35%が今後24か月以内にNaaSを導入予定。

NaaSのアクセラレーター： コロナの影響で、ネットワーク インフラストラクチャを再評価し、 プランニングサイクルの短縮が推進された



65%

の組織が、コロナが原因で生じた問題によって、
自社のネットワークインフラストラクチャの
再評価を行ったと回答した。

コロナによって生じたプランニングサイクルの最大の変化は、
長期計画のサイクルが1~2年短縮されたことである。

NaaSのベネフィット

NaaSは、新たなテクノロジーへの迅速なアクセスや
運用効率の向上など、数多くのベネフィットをもたらす。



NaaSの導入に伴い得られる 主なベネフィット

- 複数のネットワークドメイン(データセンター、
エンタープライズキャンパス、WAN)をまとめて
一元的に管理できる。
- セキュリティの強化 - NaaSの導入によって、
最も安全な最新のネットワークインフラ
ストラクチャを活用できる。

NaaSおよび新規ネットワークプロジェクトの 導入を世界的に牽引した最大の要因



**NaaSの世界的な導入の最大の
トリガーは、100Gbイーサネット、
Wi-Fi 6、SD-WAN、5Gなどの
新たなテクノロジーである。**

NaaSによって、CAPEXとOPEXの
資金調達に柔軟性をもたらす。

新規ネットワークプロジェクトの最優先事項には、
既存のネットワークインフラストラクチャとの統合や、
セキュリティ機能の一元化も含まれる。

NaaSのトップベンダーと導入の傾向

ITインフラストラクチャのプロバイダーが与える影響力は、
2021年と2022年にIDCが実施したIDC Aruba NaaS調査で
明らかになった信頼関係と一致している。

OEM/パートナー選択のための上位2つの特質

- 1 自社のビジネスとインフラ
ストラクチャを理解している
信頼できるパートナーであること
- 2 価格競争力のある優れた
サービスを提供する
パートナーであること

NaaSが提供する最も優れたサービス
は、AI (Artificial Intelligence: 人工
知能) / ML (Machine Learning: 機
械学習) を活用したプロアクティブな
管理とソフトウェアサポートである。

現在、NaaS導入で最も利用されて
いるサービスは、ソフトウェアサポート
である。



スポンサーメッセージ

NaaSを導入する準備は万端ですか？ HPE GreenLake for Arubaを活用する
ことでどのような効果が得られるのか、詳しくはこちらをご覧ください。

www.arubanetworks.com/naas

[詳細はこちら](#)